

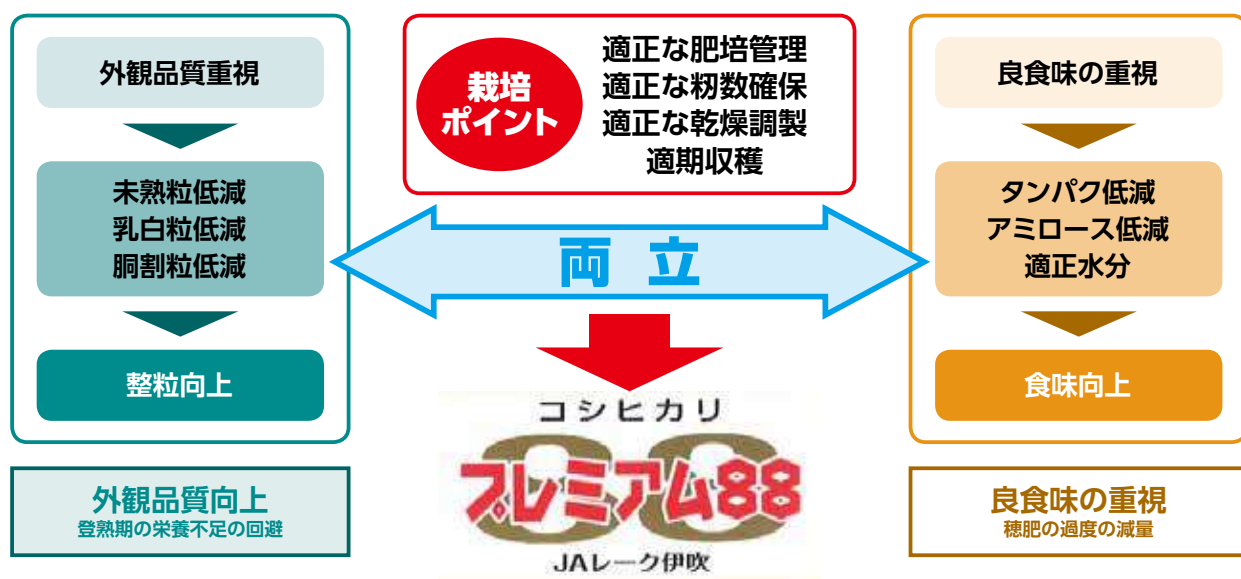
プレミアム88への重要ポイント (穂肥)

適期に適量の穂肥を散布することで、整粒と食味の向上を両立させ、プレミアム88を目指しましょう!

穂肥について

穂肥の施用は収量の増大や登熟の向上など、稲の生育後期に重要な作業です。施用時期は基本的に、幼穂の長さで出穂日を予想して判断します。コシヒカリ・滋賀羽二重糯は幼穂長1cm (出穂18日前)、みずかがみ・キヌヒカリ・日本晴は幼穂長1mm (出穂25日前)、が穂肥の施用時期の目安となります。また穂肥の施用量は葉色と株張りによって判断します。

良食味米生産のためには、穂肥の適正な施用が重要で、多施用や実肥は、タンパク含量を増加させ食味低下の要因となることが知られています。一方で、食味を重視するあまり穂肥を極端に減肥し、登熟期に栄養不足となっていることもあり、近年、高温登熟障害による乳白粒や未熟粒の発生など外観品質低下の原因と考えられていますので、生育量に応じた穂肥の適正な施用が重要です。



水稲カドミウム・リスク対策技術 (湛水管理)

湛水管理が始まります!

稲への吸収が活発となる出穂前後各3週間は、カドミウムの吸収抑制技術の「湛水管理」期間です。この技術を実施し、カドミウムのリスクに備えましょう。

水稲カドミウム・リスク対策技術

湛水管理をしましょう

稲への吸収が活発となる出穂前後各3週間は、カドミウムの吸収抑制技術の「湛水管理」期間です。

この技術を実施し、カドミウム吸収を抑制しましょう。

湛水管理の状態



土壌がすべて水面につかっている状態

土壌がすべて水面から出ている状態

JAレーク伊吹農産物安全対策協議会